授業科目名： 地理歴史科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：日髙　智彦 担当形態：単独

実務内容 （実務家教員の場合）	１０年以上、中学社会科・高校地歴科の教員歴
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　地理歴史）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

到達目標

・子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
・当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
・学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
・模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付けている。
・地理歴史科の学習評価の考え方と方法を理解している。
・当該教科における実践研究の動向を知り，授業設計の向上に取り組むことができる。

授業のテーマ

高等学校地理歴史科の教員を目指す者が、教材研究や学習指導案の作成、評価法など教育現場に必要な基礎的な教授法を身につける。また情報通信技術を活用した最新の授業法を学ぶ。

授業の概要

高等学校の地理歴史科教育における実践力を養い，身に着けた実践力を有効に活用できるよ

うにする。情報通信技術の活用とアクティブ・ラーニングを授業に導入し、実践的な教材研究や指導法を学ぶ。

授業計画
第１回：地理歴史科教育の現状と課題について学ぶ。
第２回：地理歴史科における授業づくりのポイントについて学ぶ。
第３回：年間指導計画案の作成方法を学ぶ。
第４回：単元指導計画案・学習指導案の作成方法を学ぶ。
第５回：効果的な教材活用の方法を学ぶ。
第６回：授業における情報通信技術の活用方法を学ぶ。
第７回：学習評価の方法を学ぶ。（目標に準拠した評価、観点別評価、指導要録）
第８回：「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の方法を学ぶ。
第９回：模擬授業に向けて単元指導計画案・学習指導案を作成する。
第１０回：模擬授業に向けて教材を作成する。
第１１回：模擬授業を実施する。（日本史）
第１２回：模擬授業を実施する。（世界史）
第１３回：模擬授業を実施する。（地理）
第１４回：模擬授業を実施する。（振り返りと討論）
第１５回：模擬授業に対する振り返りを行い、自らの授業について今後の課題を見つける。
定期試験

※スクーリングでは第 11 回～第 14 回を実施する。主に模擬授業をおこなった後、討論をおこない、模擬授業の評価できる点や課題点を検討する。自らが模擬授業をおこない、また他の模擬授業を見ることで実践的な授業づくりを学ぶ。

教科書
手島純編『社会科・地歴科・公民科指導法』星槎大学出版会、2022 年

参考文献
（１）荒井正剛『地理授業づくり入門―中学社会科での実践を基に』古今書院、2019 年。
（２）前川修一・梨子田喬・皆川雅樹編著『歴史教育「再」入門―歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”』清水書院、2019 年。
（３）南塚信吾・小谷汪之編著『歴史的に考えるとはどういうことか』ミネルヴァ書房、2019 年。
（４）「地理総合」「歴史総合」の教科書など。

学生に対する評価
レポート評価（２５％）、スクーリング評価（２５％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。